令和8年度　全国学力･学習状況調査

調査結果の概要と分析、改善策について

丹波市立山南中学校

【結果概要・分析にあたって】

４月２３日（木）に実施された本年度の全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。本校は、国語・数学・英語ともに全国と同程度でしたが、国語においては正答率が全国を上回る問題が、数学・英語においては下回る問題が複数ありました。基本的なことがらに定着は見られるものの、教科特有の表現を用いて説明したり、自分の考えを述べたりすることに課題が見られました。

しかし、本調査で測ることができるのは学力等の一部でしかありません。また、比較的規模の小さい本校では、生徒１人の正誤・回答によって結果が大きく変わってきます。したがって、正答率等の数値のみにとらわれるのではなく、生徒の学力の傾向を適切にとらえ、苦手な部分を補い、得意な部分をさらに伸ばす教育活動を引き続きすすめていくため、この調査結果を活用したいと考えています。

【調査概要】

○実 施 日　令和８年４月２３日（木）と５月１日（金）
○実施教科　国語、数学、英語（英語三技能と質問用紙は CBT※で実施）
○対象学年　第３学年



【質問紙調査から】

＜挑戦心・自己有用感・居場所づくり＞

質問事項	肯定的回答	全国との差
将来の夢や目標を持っていますか	57.1%	−10.5P
いじめはどんな理由があってもいけないことと思いますか	88.9%	−6.2P
学校に行くのは楽しいと思いますか	84.1%	−0.7P
友達関係に満足していますか	92.0%	+0.8P
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	93.7%	−2.2P

○「学校に行くのが楽しい」、「友達関係に満足している」と感じる生徒の割合は全国と同程度です。一方で「将来の夢や目標を持っている」生徒が全国を下回っています。挑戦心を育む取組、キャリア教育を充実させたいと考えます。

＜学習習慣＞

質問事項	１時間以上 ２時間以上	全国との差
平日にどのくらい勉強していますか	50.7% 14.2%	−0.3P −15.9P
休日にどのくらい勉強していますか	22.2% 11.1%	−0.4P −18.8P

○平日、休日ともに２時間以上学習する生徒は、全国平均を大きく下回っています。引き続き、学習時間の確保とともに本校の PM/TM の取り組みにより、自分自身の課題に応じて計画的に学習する姿勢を育みたいと考えます。

＜主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善＞

質問事項	肯定的回答	全国との差
授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	69.9%	−8.9P
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	85.7%	−6.7P

○２つの質問ともに全国と比較し、回答率が下回っています。授業改善により、生徒自身が学習の意義や目標を明確にし、自分で考えたり、互いに協力したりして課題の解決に取り組む姿勢を育みたいと考えます。

＜学習課題に取り組む姿勢＞

質問事項	肯定的回答	全国との差
今回の調査問題には解答を文章で書く問題（国）、言葉や式で説明する問題（数）がありましたが、最後まで解答しようとしましたか。	国 67.7% 数 49.2%	-4.7P -8.4P

○国、数ともに全国平均より下回りますが、数学は昨年度より＋7P となっています。引き続き粘り強く学習に取り組む姿勢を育みたいと考えます。

※本文中の「ｐ」：本校 76.2% 全国 72.5% のとき 差は「+3.7ｐ」と表記
※国研：国立教育政策研究所　URL: https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html

【各教科の結果から】

＜国語＞　※問題文、解答は国研 HP（上記）を参照

問題３（一）正答率 80.6%（全国 72.7%　その差+7.9P）
問題概要：文書作成ソフトに表示された意味と用例を参考にして、漢字を書き、漢字の組み合わせとして適切なものを選択する（とる）。
問題３（二）正答率 95.4%（全国 92.3%　その差+3.1P）
問題概要：気持ちがより伝わるように、表現を工夫して書く。

・文脈に即して正しく漢字を書いたり、意味や用例と照らし合わせて文章の中で正しく漢字を使ったりする力は定着しつつあると考える。定期的な小テストの実施などを通して、定着の確認と学び直しの機会をつくっていることが知識・技能の定着につながっていると考えられる。
・表現を工夫して書く問題で正答率が 95%、全国平均と比較しても少し上回る結果であった。また、同設問は無解答率が 0%であった。同じく「書くこと」にあたるほかの設問でも無解答率は同様に 0%や全国平均よりも低い数値となっている。気持ちを表現する力や、自分なりに表現を工夫する力がついてきていると考えられる。

問題１（三）正答率 60.0%（全国 85.4%　その差−25.1P）
問題概要：「ら抜き言葉」であるものを選択する。
問題４（三）正答率 58.5%（全国 68.7%　その差−10.2P）
問題概要：文章中に書かれている、会話の表情を表す擬音語・擬態語の特徴をまとめたものとして適切なものを選択する。

・「（１）言葉の特徴や使い方に関する事項」を問う「ら抜き言葉」や、同じような内容を表す別の表現を選択する問題の正答率が低く、正しい語句の知識や語彙量に課題がある。
・目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈する力を測る４（三）では、正答率が全国平均を 10.2%下回っており、解答類型の誤答に着目すると、文章中で触れられていない内容を選んだ生徒数の割合が県や全国平均と比較して高いことがわかる。必要な情報に着目して文章の要点を理解すること、要約して別の表現に置き換えることなどに課題があると推測される。

＜数学＞　※問題文、解答は国研 HP（上記）を参照

問題１　正答率 90.8%（全国 85.7%　その差+5.1p）
問題の概要：２月３日のＡ市の最高気温が最低気温より何℃高くなったかを書く。
問題４　正答率 69.2%（全国 55.3%　その差+13.9p）
問題の概要：反比例の表において、ｘの値が−３のときのｙの値を求める。

・数学の４領域「A．数と式」「B．図形」「C．関数」「D．データの活用」のうち、「A．数と式」「C．関数」については、全国平均正答率や無解答率を比較するとほぼ同じである。
・「計算領域」では、１学期の授業でも意欲的に取り組んでいた。計算の重要性をよく感じている。
・数学の基本事項や専門用語を適宜確認したり、数学的な表現を用いて説明する活動を行ったりすることで、筋道を立てて考える力が定着しつつある。
・授業で問題演習の後に生徒同士が学び合う場面を取り入れており、一斉指導では理解が難しかった生徒も友人の説明を聞くことで理解を深めることができている。このような取り組みが、基礎学力の定着の基盤を構築し、知識・技能の習得の助けになっていると考える。

問題３　正答率 35.4%（全国 49.1%　その差−13.7p）
問題の概要：四角形ＰＱＲＳで、ＰＳ∥ＱＲを示すための根拠となる２つの角を書く。
問題８(2)　正答率 27.7%（全国 46.1%　その差−18.4p）
問題の概要：角の二等分線を利用して、三角形の合同を証明する。

・数学の４領域「A．数と式」「B．図形」「C．関数」「D．データの活用」のうち、「B．図形」については、全国平均正答率と比較すると、−13.7%という大きな差がある。
・調査後および１学期における生徒のコメントにも「図形領域」への苦手意識が多く感じられる。
・文章を読んだときに、根拠をもとにして数学的に説明したりする点において課題が見られる。
・とくに８（２）の証明問題では全国平均と比べて−8.6%と無解答率が高い。図形の証明問題を理解出来ていない生徒や知識があってもどう書けばよいか分からないと感じている生徒がいると考える。習得した知識を活用することや最後まで粘り強く考えようとする姿勢に課題がある。

＜英語＞　※問題文、解答は国研 HP（上記）を参照

問題１　正答率 68.3%（全国 60.2%　その差+8.1P）
問題の概要：注文の場面での店員と客の会話を聞き、客が注文したものを選択する。
問題９　正答率 57.1%（全国 49.0%　その差+8.1P）
問題の概要：物語を読み、物語全体を通した登場人物の気持ちの変化を表したものを選択する。

・定期的に授業で行う聞き取りテストの際に、聞き取るポイントを伝えて行っている。その知識を活用し、情報を最後までしっかりと聞き、正確に聞き取る力がついていると考えられる。
・教科書の本文等まとまりのある文章を読む際には、内容理解の問を毎回設定し、登場人物の心情や物語の概要を捉えることを意識しながら読むことを指導してきた成果だと考えられる。
・全体を通して無解答率が設問の約半数は 0%であり、残りの約半数も全国平均よりも低い数値となっている。無解答率が高くなる「書くこと」の設問に関しても、全国平均よりも低い数値となった設問が多い。授業の中で日常的に英文を書く指導をしてきた成果だと考えられる。

問題６　正答率 47.6%（全国 67.3%　その差−19.7P）
問題の概要：文章を読み、グラフの空所に入る学校行事を選択する。
問題 11②　正答率 36.5%（全国 52.7%　その差−16.2P）
問題の概要：与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く。

・比較級や最上級を用いたグラフに関する情報の英文の文構造を適切に捉えることに課題が見られる。意味のまとまりを捉えながら、情報を読み取る力が必要だと考えられる。
・読み取ったことや聞き取ったことを、グラフや表、絵など他の形式へ置き換えることや、文章全体を全訳するのではなく要点を絞って読み取る、聞き取ることに課題が見られる。
・規則動詞の過去形を理解し、その知識を活用して書くことに課題が見られる。既習の文法事項の違いを整理し、適切に使い分けることができていないと推測される。

【今後の取組（指導改善のポイント等）】

＜各教科及び教育活動全般を通して＞
○国語・数学・英語の課題や成果をすべての教職員で共有し、全教科の授業改善を図ります。特に成果が見られた教科の指導方法については、各教科の特性を生かしながら各教科の授業づくりに生かします。
○例年課題となっている「書くこと」については、すべての教科で「自分の考えを整理する」「根拠を明確にする」「目的や状況に応じて適切な表現を用いる」等を踏まえた授業づくりに努めます。
○生徒一人ひとりが自分自身の課題と向き合い、その解決に向けて「いつ」「何を」「どのくらい」学習する（取り組む）のかを決め、主体的・計画的・創造的に学習等をすすめる力の育成に努めます。
○学校行事や日常の学校生活の中で、生徒が主体的に活動する場面を意図的に設定し、自己有用感、挑戦心の醸成に取り組むとともに、いじめを生まない安心・安全な学校風土づくりをすすめます。